

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果について

はじめに

全国学力・学習状況調査は、中学校では3年生を対象に行われます。今年度は、4月22日(水)に「生活習慣・学習環境等に関する質問紙調査」、英語の「教科に関する調査」を、23日(木)に「国語・数学の調査」を、28日(火)に英語の「話すこと」を実施しました。この調査の目的は、結果をもとに生徒の学力や学習状況を分析・把握し、各教科における成果や課題、生活状況の実態等を明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善に役立てることです。本校では、各教科担当を中心に分析し、まとめましたので、HP等を通じて保護者・地域の皆様にも本校の概要をお知らせしていきたいと思ひます。

学力調査の概要

本校の平均正答率は、国語は全国(公立)及び山梨県よりも上回っていましたが、数学、英語はほぼ同等(若干、本校が上回っている)という結果でした。この学力・学習状況調査を基に、生徒一人一人の課題を把握し、指導に生かしていきたいと思ひます。

山梨県・全国(公立)の平均正答率(自校の数値は示しません)			
	国語	数学	英語(IRTスコア集計値)
山梨県	63	56	493
全 国	63.9	57.0	499

中学校学習指導要領では、それぞれ教科等の目標や内容について、生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」という3つの柱に基づいて整理されており、これら3つの柱は相互に関連付けながら育成されるものという考えに立っています。国語・数学・英語のそれぞれの教科について「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」の2つの評価の観点に基づき全国学力・学習状況調査の問題は出題されています。

各教科の成果と課題(○:成果 △:課題)

【国語】

- ほとんどの項目で正答率が県平均、全国平均を上回る結果であり、全般的に確かな国語力が身につけているといえる。「具体と抽象の関係を整理する力」「対比の関係を整理する力」「因果関係を整理する力」の更なる定着を図ると共に、語彙力の向上、言語感覚の向上に取り組んでいきたい。
- 目的や場面に応じて、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。
- 話し合いの内容に含まれる複数の情報を正しく整理し扱うことができる。
- 表現の効果を考えて描写することができる。

○文章の展開の意図を理解し、段落相互の関係等を正しく捉えることができる。

○書かれた文章について、表現の工夫とその効果を理解し、表現に生かすことができる。

△文章の中心的部分と付加的部分について叙述を基に捉え、文章全体の構成を正しく捉えることができる。

△語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができる。

●今後の取り組み

- ・辞書を使って意味を調べるとともに、その語句が文脈の中でどのような意味で使われているかを常に確認する。
- ・ことわざ、慣用句、故事成語、四字熟語、対義語、類義語等について授業の中で取り扱う機会を増やすとともに、資料集を活用するなどして語彙力の向上に取り組む。
- ・文章読み取りの中で「具体と抽象の関係」「対比の関係」「因果関係」を常に意識させるとともに、それぞれの関係が文章全体の構成の中でどのように働いているのか考えさせる。
- ・「書く活動」を多く取り入れ取り組む中で、語句の意味や用法を具体的に考える機会とする。



【数学】

どの領域においても正答率が県平均、全国平均を上回る結果となった。

○具体的な事象を基に、証明する事柄の仮定を見いだすことができる。

○筋道を立てて考え、証明することができる。

○箱ひげ図と四分位数の対応について理解している。

△数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。

△データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができる。

△統合的・発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明することができる。

●今後の取組

- ・答えを求める際に、ただ求めるのではなく、求め方を説明させる活動を取り入れる。その際、いきなり説明させるのではなく、数学的用語等を確認しながら、スモールステップで繰り返し取り組むことが定着に繋がる。
- ・情報を読み取り説明する問題を授業の中に取り入れ、条件を満たす説明であるかどうか考えさせる。ペアや班活動で互いの説明を検討させることで、曖昧な表現から数学的な表現に近づける意識を持たせる。
- ・説明する機会を増やすことで、「説明」の心理的ハ



ドルを下げ、「説明」は「特別なこと」ではないという意識を育てていく。

・数の性質を見いだす練習を増やしていく。

【英語】(聞く、読む、書くこと、話すこと)

- 音声や語彙、表現、文法などの知識を聞くことによる実際のコミュニケーションに活用できる。
- 日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ることができる。
- 日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して必要な情報を読み取ることができる。
- 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ち等を整理しまとまりのある文章を書くことができる。
- 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ち等を整理しまとまりのある内容を話すことができる。
- △日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を読み取ることができる。
- △社会的な話題について短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができる。
- △音声や語彙、表現、文法などの知識を話すことによる実際のコミュニケーションに活用できる。

●今後の取組

- ・「聞く」更に聞く力を高めるために、ミニテストなどで通常2回聞くとこを1回のみとし、実生活では聞き返せない場面もあるので集中して聞くことに取り組んでいく。
- ・「読む」一文ずつ訳したり、訳文の正確性に重点を置いたりするのではなく、まとまりのある英文(段落程度)から筆者が伝えたいことは何なのか、どの部分から分かるかなど、内容の理解に重点を置く。訳す活動から、目的をもって情報を活用する活動へ転換する。初見で100語程度の英文を、制限時間を決めて要旨をつかむトレーニングもする。
- ・「書く」書くことが必要な場面を設定し、自分の考えや理由を書く時間を設け、課題を与え、考える時間を十分に持ち英作文させる。語彙量を増やすため、頻出語句の反復学習を定期的にする。(単語テスト)
- ・「話すこと」話すことに慣れていないためと既習表現を正確に使えていないという点を改善するために、毎授業のSmall Talkを通して、話す型(自分の考え➡理由①➡理由②➡まとめ)を短い発話から始め、反復練習する。意見交換や即興30秒スピーチなどの取組をする。

学習状況調査(質問紙調査)の概要

- :肯定的な回答が、全国平均を上回っている設問
- △:肯定的な回答が、全国平均を下回っている設問
- ▽全国に比べて下回ってはいないが課題がある
- ※概ね同等以上のものが多かった。①「当てはまる」
- ②「どちらかといえば当てはまる」の肯定的な回答も、内訳もみると全国に比べて①が多かった。

【学校や家庭での生活について】

- 毎日同じくらいの時刻に寝たり起きたりしている。
- 先生はよいところを認めてくれている。
- 困り事や不安時に学校の大人に相談できる。

- 学校に行くのが楽しい。
- 自分と違う意見について考えるのは楽しい。
- 学級で人と違う意見を言っても否定されない。
- 分からないこと等があったとき自分で学び方を考え工夫することができている。
- 授業以外で読書をする時間の割合が多い。
- 地域や社会をよりよくするために何かしたい。
- PC等ICT器機で発表のスライドを作成できる。
- △PC等ICT器機を使って情報を整理する。
- ▽30分以上の家庭学習の割合は全国に比べて高く習慣化されている点においては評価できるが、取組時間数が少ない。
- ▽新聞を読む。(ほとんど読まない)

【1.2年で受けた授業について】

- 自分の考えを発表する時、資料や話の組立等を工夫していた。
- 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。
- 各教科等で学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる活動を行っていた。
- 自分にあった教え方、教材、学習時間等であった。
- 生活をより良くするために学活で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。
- 学級活動における学級での話し合いを生かして、今自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。
- △ICT器機の使用頻度が多い。

【現在、受けている授業等について】

- 話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたりすることができる。
- 学習内容を振り返り次の学習につなげている。
- 学んだことを次の学習や実生活に結びつけ考えたり生かしたりすることができる。
- 先生は分かるまで教えてくれる。
- 国語の授業で先生は良いところやできるようになったところを伝えてくれる。学習が上手くできないところはどこかを伝え、できるための方策を教えてくれる。
- 数学を学習したことで普段の生活の中で活用できていて、将来社会に出たときに役立つ。
- 数学で考えを説明する活動をよく行っている。
- 英語の授業で学んだことは将来役立つと思う。
- △国語・英語の勉強は得意で、授業内容も分かる。
- △将来、英語を生かした生活や職業に就きたい。
- △キーボードで英語を書くことができる。
- ▽日常的に英語を使う機会が十分あった。
- ▽家庭学習でICT器機を使って英語の練習をした。
- 【対応】授業等においては熱心に取り組み、各教科の有用性は認識していても、苦手意識があり、それを活用できる職業に就きたいかなどについては課題がある。身近な生活の中で、興味が持てるよう、学んだことを活用できる場面で授業で仕組み、学びを実感させ、自信を持たせていきたい。

